

大阪大大学院の井上豪助教授(構造物理化学)らの研究チームが、花粉症などのアレルギー反応が体内で起きる時に

阪大研究チーム

働く酵素の立体構造を解明し、立体制が分かることで酵素の働きを止めてアレルギー反応を抑制する薬が開発しやす

花粉改善に光

アレルギー 新薬期待 酵素の構造解明

くなる。米科学誌「ネイチャ」につぶやかれる。PGD2は、因となる物質が体内に入る、これまでも、プロスタグランジンの働きを抑制する薬は、それが分かった。このPGD2は、血管の拡張や気管支の収縮、かゆみ、鼻水などの症状を起す。

研究チームは、PGD2をつくる酵素を結晶化させ、構造を解析した。その結果、酵素は一部がくぼんだ「口」のような構造を持っていた。それをふさげば、アレルギーを引き起こす特定のプロスタグランジンの生成だけを止めることが可能になる」と話している。

【永山悦子】

斯塔グランジンまで抑えてしとが分かつた。

研究チームの裏出良博・大

阪バイオサイエンス研究所部

長は「酵素の『口』の大きさ

と形が分かつた。この『口』

をふさげば、アレルギーを引

き起こす特定のプロスタグラ

ンジンの生成だけを止めるこ

とが可能になる」と話してい

る。